

雪氷辞典の改訂作業の現状および極地雪氷分科会の取り組み

1. これまでの状況

- 2010年12月2日 第1回新版雪氷辞典編集委員会開催（東京，化学会館5階）
編集委員会の体制，編集方針の検討（発行形式，内容，今後のスケジュール）などを決めた。
- 2011年3月末 各分野（分科会に相当）からの用語の提案
- 2011年9月1日 第2回新版雪氷辞典編集委員会開催（東京，神田 west 会場4階）
各分野からの新規用語の提案，執筆者の選定方針，執筆依頼の方針，印刷方針（販売価格3000円以内，1000部程度の印刷），積雪分野の担当者の追加（尾関氏），今後のスケジュールなどを決めた。
- 2012年8月10日 第3回新版雪氷辞典編集委員会開催（東京，化学会館5階）
最終的な用語一覧の確認，各分野間にまたがる用語・解説文の確認，表記方法の確認（見よ項目，同義語の取り扱い，改稿者の表記方法），付録の確認，辞典の体裁の確認
 - 解説文のある用語数（新規312を含む）：744，見よ項目（解説文のない項目）：299
 - ほぼ全面的に改定した場合は単独名とし，連名にする場合は，より貢献度の多い方を先に記すこととした。また，必ずしも改稿した原稿を元の執筆者に閲覧する必要はないこととした。
 - 極地雪氷分科会に関連する付録はない。
 - 新版のサイズはA5判（縦210mm 横148mm）とする。なお，現在の雪氷辞典はB6版（縦182mm 横128mm）なので，縦横ともに15%大きくなる。
 - 写真が提供されている用語解説はなるべくそのまま掲載する（ただし掲載は白黒）。なお，雪氷学会HPにカラー版の写真を掲載することを検討する。
 - 当初計画していた新版雪氷辞典の内容をCDにして同梱することは，新版雪氷辞典の出版数に影響が出る可能性があるため，止めることになった。
- 新版雪氷事典の編集体制
編集委員長：高橋修平
副編集委員長：阿部修
編集顧問：成瀬廉二，樋口敬二，秋田谷英次，渡邊興亜，
編集委員（担当分野）：中澤文男（氷河），亀田貴雄（極地），渡辺晋生（凍土），和泉 薫（雪崩），
内田 努・尾関俊浩（物性），直木和弘（衛星・海氷），菅原宣義（工学），的場澄人（化学），
斉藤和之（気象・水文），杉浦幸之助（吹雪），遠藤八十一（農林），生活（阿部修，佐藤篤司），
事務局（阿部修，佐藤研吾）

2. 極地雪氷分科会での作業状況

- 2012年4月～8月：原稿の執筆依頼および内容の検討
既存の用語は、現在の原稿執筆者に改訂希望を問い合わせ、用語改訂を実施。新規用語については、下記のWGで選定した方に執筆を依頼した。
- 2012年8月18日以降：極地雪氷用語解説WGメンバーによる解説文の検討および500字を越える解説文の改訂作業の実施。
 - 亀田貴雄：氷床での雪氷観測全般，コア解析（物理）
 - 本山秀明：氷床掘削，コア解析（新領域）
 - 藤田秀二：氷床での雪氷観測（アイスレーダー），コア解析（物理，年代）
 - 川村賢二：コア解析（気体分析），古気候学関連の用語
 - 平沢尚彦：大気・気象
 - 三浦英樹：第四紀学，地形学
 - 鈴木利孝：コア解析（化学）
 - 杉山 慎：氷河掘削，氷河観測
 - 竹内 望：極限生物，氷河生物
 - ：極地雪氷用語解説WG幹事
- 2012年8月28日：極地雪氷分科会 ML への新版雪氷辞典の状況報告。用語解説案の周知および改訂希望の受付。
- 2012年9月20日：極地雪氷分科会 ML への新版雪氷辞典の改訂状況の報告。ファイルを極地雪氷分科会のHPにアップロードした。
- 用語解説の状況（極地雪氷分野関連）

現状の雪氷辞典の用語解説をそのまま掲載：	13
現状の雪氷辞典の用語解説を改訂して掲載：	30
新規に追加する用語	： 66
合計	109

3. 極地雪氷分科会でのこれまでの取り組み（極地雪氷用語解説との関係）

2002年に雪氷特集号で公表した極地雪氷用語解説の改訂作業を2009年から開始しており、本山秀明、藤田秀二、川村賢二、平沢尚彦、三浦英樹、鈴木利孝、杉山慎、直木和宏、竹内望、福井幸太郎の各氏に極地雪氷用語解説WG委員になっていただき、改訂すべき用語の洗い出しを進め、執筆者の選定、執筆の作業を進めてきた。

このような中で雪氷辞典の編纂作業が始まったので、極地雪氷用語解説の改訂のために集めた用語解説を雪氷辞典に転載し、その後に極地雪氷用語解説に掲載することとした。しかしながら、新版雪氷辞典の著作権の関係で、同じ文章を新版雪氷辞典と極地雪氷用語解説の掲載することが難しいということが2011年9月1日開催の第2回編集委員会で新たにわかったため、これまでに集めた用語解説は新版雪氷事典で使うことにした。第2回編集委員会では、上記の各委員から提案された用語を極地雪氷分科会からの用語提案として説明した。当初の新規用語数は121であったが、編集委員会から新規用語を削減するようにとの指示があり、最終的には、既存用語(改訂なし)13、既存用語(改訂あり)30、新規用語66の合計109用語となった。

第3回編集委員会では種々の議論を行ったが、この中で、解説文の字数は原則200文字、最大でも500文字とすることが確認された。極地雪氷関連の用語解説では500字を越えるものがあったので、執筆者に改訂を依頼した。

4. 今後の予定

2012年度中に新版雪氷辞典を出版する。